

令和 5（2023）年度事業報告書

1. 全体（法人運営）

役員の変更期にあたり、評議員会、理事会を下表のとおり開催し運営にあたりました。

表一 評議員会・理事会開催の経過

会議名	開催年月日	主な審議・議決事項
決算理事会	2023(令和 5). 6. 10	1. 令和 4 年度事業報告書並びに決算書承認の件 2. 役員改選にともなう役員候補者選任の件
決算評議員会	2023(令和 5). 6. 24	1. 令和 4 年度計算書類及び財産目録承認の件 2. 役員改選に伴なう理事・監事選任の件
臨時理事会	2023(令和 5). 6. 24	1. 新任期における理事長決定の件
予算理事会	2024(令和 6). 3. 23	1. 令和 6 年度事業計画並びに予算案決定の件

理事長には、夏分から体調がすぐれず通院しておりましたが、11月に腸閉塞を起こし、検査の結果「S字結腸癌」と診断され手術、年末まで入院となりました。

期を通じて2回の職務執行状況報告を予定しておりましたが、思うにまかせない状況にありましたことご理解の程お願いいたします。

2. 福祉事業

前年度に引き続き、障害者就労継続支援 A 型事業を行いました。

利用契約者は、期首 20 名でスタート、1 名は 4 月に退社、6 月には長期欠勤者が発生し、期末月によろやく復帰した。9 月には怪我による長欠者が発生し、欠勤は 2 ヶ月に及んだ。同月新規の利用者が入社し、期首と同じ 20 名体制となった。その後、数名が体調不良等により半月程度欠勤したため、自立支援給付金支給額が大幅に減少した。長期欠勤者の発生を考慮すると、22～3 人の利用者確保は必須と考えられる。

サービス提供日数は、各月とも〔月日数－8〕日を予定しました。1 月に降雪による臨時休業を余儀なくされました。

- ① 障害者の受け入れ・個別支援計画の作成、利用者負担額等の請求・受領、介護給付費請求・受領及び利用者の相談・苦情処理等の必要な福祉関連業務を実施しました。
- ② 職員・利用者相互間の融和を図るためのレクリエーション行事は、「クリスマス会」のみ行いました。
- ③ 職員の各種研修会への参加
コロナ禍以来、職員研修はリモート開催が主体となり、多くの職員が、パソコンを使用する研修会に参加しました。

福岡県障がい福祉サービス事業所等支援員研修 3 名

福岡県精神障がい者支援の障がい特性と支援技法を学ぶ研修会 1 名

令和 5 年度福祉サービス苦情解決従事者研修会 1 名

令和5年度発達障がい者のための就労支援研修会 1名

令和5年度障害者虐待防止研修 虐待防止と身体拘束適正化の推進 6名

3. 就労支援事業

①栽培用菌床並びに菌糸商品の製造販売

前期に続き、昆虫飼育関連の菌糸商品の動きが良く、受注が活発で積極的に仕込みました。最も売れ筋の「培養産卵木」は、引き続き原材料の仕入れに困窮しました。しかしながら、原材料を持ち込んだ(送付された)ものについては、積極的に菌加工を受入れ、加工料として、経営に影響がでないよう対応しました。

当期の栽培用菌床及び菌糸商品の仕込み実績は次表のとおりであった。

表一工場仕込・培養袋数

月	仕込釜数	菌床生産			受託生産品		
		全体	キクラゲ	霊芝	全体	ブロック	培養産卵木
4	17	7,836	2,081	4,123	3,619	1,444	1,801
5	13	5,783	3,851	0	2,512	786	1,478
6	14	4,854	3,306	0	4,087	1,844	1,867
7	16	7,056	3,199	0	3,014	884	1,477
8	14	6,195	3,826	0	3,872	1,620	1,767
9	16	5,995	5,615	0	4,184	1,343	1,694
10	13	4,449	3,838	0	4,738	2,817	1,335
11	16	6,953	5,308	0	3,790	2,183	1,151
12	17	5,853	3,752	0	4,334	2,735	1,004
1	15	7,434	3,956	0	1,962	463	1,088
2	17	8,440	3,555	1,730	4,492	2,701	1,399
3	19	9,213	3,815	4,561	3,426	561	1,922
当期	187	80,061	46,102	10,414	44,032	19,381	18,053
前期	201	99,550	66,905	11,733	35,899	11,143	17,932
増減	-14	-19,489	-20,803	ヨコバイ	+8,133	+8,238	ヨコバイ

○製造設備の不具合（攪拌機等）を主因として、対前期比14釜の仕込み減となった。

○キクラゲ栽培用菌床の受注は、大口である「翼」、志水企画の減産等により減少した。

○クワガタ飼育用菌糸ブロックは、ブナオガ粉を確保していたため、受注に応じ仕込みを続けた結果、約14釜の増産となった。これは、培養産卵木の好調な売れ行きに便乗した売り上げ増を狙っていた成果が表れた結果となった。

○培養産卵木は、旧来の入手先の事故（病気）により深刻な状態となり、原材料の入手難が続いたものの、大口の入手先（広島・三次）のお陰でほぼヨコバイの生産にこぎつけた。

②きのこ栽培・販売

自家栽培は、前期同様に採算ベースに乗りにくい種類は栽培数量を減らした。種類はアラゲキクラゲ、次いでシイタケで、南ヒラタケやナメコは敬遠対象とした。しかしながら、冬場の北ヒラタケは低温期確実に発生するため、栽培量を増やした。

年間を通じた生産量は下表に示した。

表-2023（令和5）年度きのこ生産量（単位：kg）

月	生鮮キノコ					乾燥キノコ	
	キクラゲ	シイタケ	ヒラタケ類	ナメコ	その他	キクラゲ	霊芝
4	28	442	14	6	1		
5	682	255	23	0	9		
6	3,178	5	0	0	34		
7	2,422	0	0	0	55		
8	1,597	0	0	0	43		
9	1,605	73	337	0	25		
10	547	748	522	0	150		
11	225	1,132	164	27	0		
12	2	322	75	94	0		
1	0	278	30	128	0		
2	0	261	49	161	0		
3	0	196	8	99	0		
当期計	10,286	3,707	1,222	515	317	856	150
前期計	27,337	4,092	1,237	1,424	251		

キクラゲは、前期同様、宗像(志水企画)送りを予定したが、先方の生産体制が変り、後半は止まったため、生鮮キノコの売り上げ減につながった。

シイタケは、学校給食向けの商品の確保のため、ある程度の量を作らざるをえず、「岬」「HB3」を施設能力いっぱい栽培した。学校給食はほとんどが乾燥品で、価格設定が低く利益につながらないが、カット加工品(スライス)は好評で、どの直売所でも競争力のある商品となっている。

きのこ栽培は、苑内ハウス2棟(240㎡)、野添ハウス2棟(370㎡)及び岬F・ハウスで行った。岬Fでは、キクラゲ栽培を行い、すべて乾燥し、生産量は850kgを超えた。

以下その概要を記す。

1. 生鮮キノコの総収穫量は、約16トンで、前期を大きく下回った。これは、キクラゲ栽培を乾燥向けと区別したことによるところが大きい。
2. シイタケ、ヒラタケ類等は、東上ハウスの許容能力の範囲内で栽培した。
3. ナメコ栽培は、菌床販売先では好評であるが、苑としては疑問符で、一考を要する。
4. その他のマイタケは、比較的容易に規模拡大が可能で、売り方、売れ行きともに検討の

余地がある。

5. 霊芝(ナガセ向け)は、栽培の主体を岬 F に移したため、規模縮小、夏場の異常高温の影響を受け、年々収量に不安がつきまとう。
6. キクラゲ栽培は、岬 F ハウスを利用した栽培で増産が可能であることが分かった。

4. 事業収支

2023(令和5)年度「東上きのこ苑」事業収支は、ほぼ下表のとおりとなりました。

令和5年度会計区分別事業収支表 (単位：千円)

区分	科目	当年度決算額	前年度決算額	増減	摘要
福祉収入	自立支援給付金	32,969	35,492	-2,523	欠勤者増
	利用者負担金	783	842	-59	
	補助金収入	2,889	2,235	654	
	福祉収入計	36,641	38,569	-1,928	大幅な減収
福祉支出	人件費	28,153	26,557	1,596	
	事業費	1,742	1,599	125	
	事務費	7,386	6,671	715	
	福祉支出計	37,281	34,827	2,454	
福祉会計収支		-640	3,742		
就労収入	菌床売上	15,432	13,279	2,153	
	きのこ売上	10,242	12,100	-1,858	キクラゲ・霊芝減
	受託製造売上	20,106	16,195	3,911	
	昆虫事業売上	3,425	2,695	730	
	就労収入計	49,205	44,269	4,935	大幅な増収
就労支出	労務費	22,058	22,083	-25	
	材料費	16,253	14,069	2,184	
	外注加工費	2,019	458	1,561	
	製造経費	7,791	7,773	18	
	就労支出計	48,121	44,382	3,739	
就労会計収支		1,084	-122		
合計収支		444	3,620		

※詳細は、決算明細書類をご覧ください。

福祉会計：

病気(精神および身体)等による欠勤者が多く発生し、予想出来なかったほどの自立支援給付金減が生じた。健全な経営のためには、利用契約者数を最低でも22名程度とする必要がある。

就労支援会計：

昆虫関連菌糸商品の動きが好調で、仕込み量を相当増やしたものの、在庫切れの状況であった。原料となる「ブナオガ粉」および「クヌギ産卵木」の入手に気を配り、好調を維持したい。ブナオガ粉は、一時の入手難(中国・アメリカの建築材需要の影響)を脱却した模様、一方、培養産卵木用の「朽ち木」は品薄状態が続いている。材料費の増加は避けられない。